

会 議 記 録

高松市附属機関等の会議の公開及び委員の公募に関する指針の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	平成 27 年度第 2 回スポーツ推進審議会
開催日時	平成 27 年 1 1 月 2 5 日 (水) 1 8 時 3 0 分～ 2 0 時 3 0 分
開催場所	高松市役所 3 階 3 2 会議室
議 題	議題 高松市スポーツ推進計画 (案) について
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	
出席委員	内海委員、大西委員、十河委員、田村委員、西山委員、野崎委員、花房委員、松本委員、森委員 (欠席 2 名)
傍 聴 者	0 人 (定員 5 人)
担当課および連絡先	スポーツ振興課 839-2626

会議経過及び会議結果

【会議の経過】

(1) 会長あいさつ

(2) 事務局から会議成立の報告をした後、会議の公開について委員会に諮り、審議した結果、公開を決定した。

(3) 事務局から議題「高松市スポーツ推進計画 (案)」について各章毎に説明した。

委員から意見を聴取した。

項目ごとの主な意見、質疑等は次のとおり。

議 題

議 案

○高松市スポーツ推進計画 (案) [第 1 章「計画の基本的な考え方」について]

【F】

策定の趣旨の中で、「生涯スポーツの振興方策」、「競技力向上方策」・・・の部分が大幅に削除されているが、どういった趣旨でしょうか。

【事務局】

削除部分は、前回の基本計画の時期に合わせた内容であり、期間的にも過ぎているため、現在に合わせて削除した。そして、新たに東京オリンピック・パラリンピック等現在の情勢に合わせた内容のものに変更しました。

【F】

文言に直接関係はないが、スポーツ庁が設立されました。それにより、市行政として何か大きな影響を受けることはないでしょうか？

【事務局】

ありません。

【F】

中央の方で文科省関係のスポーツと福祉関係のスポーツと一括した形となっていますが、市としては福祉とは別立てという事でしょうか。

【事務局】

基本的には別立てですが、関連する部分につきましては局を越えて連携を図っていくようにしています。

【F】

平成35年といえは大分先のような感じがしますが、人口が減ってくる平成30年ころから18歳人口が大きく減ってくると言われています。大きな人口構成の転換期かと思われます。

【G】

「スポーツ資源と観光資源を融合したスポーツイベントを開催することなどにより、交流人口の拡大と地域経済への波及効果が図られるスポーツツーリズムを推進することも重要です。」(第3章基本方針2 『集まろう！みんなでスポーツ』内)とあるが、これは具体的にどういう風にイメージされているのかお伺いします。

【事務局】

トップスポーツチーム「サッカー、バスケットボール、アイスホッケー、野球」がありますが、特にサッカー(カマタマーレ讃岐)ですと、ホーム(丸亀ですが)で試合がある場合、相手チームの応援団(ファン)にお越しいただく企画をしています。スポーツを通じて誘客をしたその方々に対して、「ツーリズム」ですので、観光などの付加価値を付けることによって一層の交流、誘客を増やしていくことで、経済効果にもつながるということを踏まえて、スポーツツーリズムと考えております。

また、その他にもこの内容に寄与できるイベントなどがあれば、そういったところにも力を入れていきたいと思っています。

【G】

例えば、カマタマーレの試合でアウェーチームの応援団がきて、高松に宿泊することによって、高松の観光資源を案内することになると、旅行会社の定期コース(モデルコースとして)では、1泊2日でお越しになるのであれば、「試合を中心にこういった観光ができますよ。」など、具体的な発信が必要になってくると思います。

応援団というのは、私たちがアスレチックトレーナーとして関わりもありますが、少ないお金でできるだけ多くのアウェーの試合を観戦したいという思いで動いているので、コンパクトにしていきたいのと、市の方でそれに対する助成か何かを考えていますか。

【事務局】

今年度につきましては、どれくらいの方が高松に泊まられていて、また、観光に行かれているのかを調査するために、まず、先日の大宮戦の際大宮に行きまして、こちらの付加価値「試合会場にパンフレットを持参された方にはプレゼント」、「栗林公園に行けばプレゼント」、「宿泊は〇%割引」などを記載したパンフレットをお配りして、実際にホーム(丸亀)での対大宮戦の際、パンフレット提示された方に「うどん」をプレゼントするなど、試験的な事業を行いました。で、1回ではなかなかデータを取ることは難しいので、来年度も引き続き実施し、来ていただい

た方にはスポーツだけではなく、高松を発信していただくために、今後新たな企画を考えていきたいと思っています。

【A】

3ページの囲みの中（本計画において・・・）の中で、これを見ると、健常者が主体と思われる。本計画は平成35年までの計画で、当然オリンピック・パラリンピックが終わっており、それ以降の時期の計画もあると思いますが、今実施中の市の主催共催でやっている、市民スポーツフェスティバルや振興事業団でやっているものは、健常者だけの競技しかやっていない。これから先、健常者と障害者が融合していくような定義はできないですか。

【事務局】

特別に障害者の競技というのはないが、体を使った運動すべてを含めた広範囲の活動という定義の中で補完できているのではないかと考えております。そして、今からの協議の中で障害者のスポーツを含めておりますので、その中で補完できればと思います。

また、もしその表現の中で、もっと踏まえることがあれば、この審議会の中で協議いただければ取り組んでいけると思います。

【B】

前の計画では6年計画であったと思いますが、今回は8年計画となっており、2年延びているのはどうしてか。

もう一点、これは提案ですが、一番最初記載されている表紙のところですが、前回と同じ「スポーツを たのしく！ かっばつに！ まいにち！ つづけよう！」と、たかまつの頭文字をとってロゴができていますが、是非今度は、変えたらいいかと思いました。前回の時には、個人々がとにかくスポーツをやって行こうと姿勢は達成されたので、今回は、2020年オリンピック・パラリンピックがあります。また、事前合宿もあるだろうし、屋島陸上競技場もできると言うことで、〇〇委員さんから、「スポーツで観光も」、という話もありました。と言うことで、せっかくですので、それを踏まえたうえで、少し変化をもたらして、今までの個人から、高松市全体でみんなで行いましょう。という意味で、「スポーツを たのしく！ かっきあふれる！ まちづくりに！ つなげよう！」というのはいかがでしょうかと思います。

【F】

今までのキャッチフレーズが、市民の一個人に訴えてる感じがしてるところを、もっとスポーツに携わるみんなでいい街づくりしましょう。っていう、そういう表紙にしませんか。というご意見ですね。

後ほど、審議があると思います。いいアイデアをありがとうございました。

【事務局】

8年計画という件につきましては、上位計画であります第6次の高松市総合計画の年度に合わせた形にしました。

総合計画は8年ですけれども、前半を終了した時点で、見直しが想定されておりますので、「必要であれば、この計画に限らず総合計画の見直しができる。」全体的にそういうことであります。

【F】

スポーツの基本計画的なものは、例えば高松市の財政が苦しくなったというときに、スポーツ予算を減らそう。というときに、「いや、スポーツ振興課としては、スポーツ振興計画があるので減らせません。といった、やはりスポーツにこれだけお金をかけなければならないんだ。」というある意味理由付けなので、長いのはいいと思うのですが、4年で見直

しというのは、少し寂しい話かなと思いました。

議 案

○高松市スポーツ推進計画（案）[第2章「スポーツ振興の基本方針」について]

【G】

先程の資料1の9ページ、【基本施策（2）大学との連携】で、タイトルが「大学等との連携」だが、本文では「大学のスポーツに関する・・・」となっている。私は専門学校所属なのですが、高松には他にも、穴吹や特殊学校など専門学校があるので、ここに「等」を付けて頂ければ「大学等のスポーツに関する・・・」になる。私はこれだと大学に限定されていると感じましたので、出来れば「民間との連携・・・」ということでもありますので、「等」を入れて頂ければと思います。

【事務局】

修正いたします。

行政の官用で、いっぱい描いた後の「等」は、全部それ以該の物とする法則の基づいて書いてあると思われませんが、普通に読むとわかりにくいので、修正してまいります。

【G】

わかりました。よろしくお願いたします。

議 案

○高松市スポーツ推進計画（案）[第3章「基本施策の展開」について]

【F】

フェイスブックの掲示は、高松市は既に立ち上がっているんですか。

【事務局】

私どものスポーツ振興課が属してます創造都市推進局のフェイスブックは立ち上がっております、各自情報を発信しております。

【F】

「ウォーキングやジョギングに関するコース等の情報を発信していく。」についても既にしていますか。

【事務局】

これにつきましては、今年度から検討しておりますが、もっと他にも方策があるのではないかとということで、来年度も引き続き検討をしていきたいと思っています。その中で、健康福祉局が保健の観点から、健康づくりということで同じくウォーキングやジョギングコースを紹介しているものがありました。同じような内容ですので、そのあたりと融合して、連携をとりながら一つにまとめたものができる様、28年度につきましては検討していきたいと考えております。

【F】

本体8ページのところで、10代、20代の子はよくスポーツをすると言われておりますし、50代、60代、70台と年配になればなるほど、またスポーツ実施率が高い。で、30代、40代あたりが全然スポーツに関わらない。という状況がありますよね。このあたりの年代に観てもらえるようなメディアとなると、テレビ・ラジオ・新聞・雑誌、と言う形になるのですか。

【A】

高齢者は、毎日が日曜日なので新聞に穴が開くほど見ておるだろうと言うことで、例えば、新聞の中ページでもよいから市が毎日固定した情報発信するものを設けたらどうでしょうか。

それと、30代、40代のスポーツ人口が少ないというのは、働き盛りというので仕方がないのではと思う。そうはいえ、私は四番町なんです、イベントで子どもが案内チラシを出すと、子どもが見て、「お父さん、お母さん行こう」となる。誰もができるイベント「ニュースポーツ」や「ジョギング」をやっていただいて、そこに「TASS」の方に来ていただいて指導していただく。僕らでも歩くんですけど、「まっすぐ歩けていないんじゃないか。」と思うことがある。そんな時にちょっと指導していただくと助かる。なので、そういうことが必要ではないのかなと思う。

【F】

「さまざまなメディアを活用して」ということと、「小さなイベントを活用して」ということについて、本文に関してどうこうということではないんですが、広くお考えいただければと思います。

【G】

「見つけよう！わたしのスポーツ」のところで、スポーツ医科学を踏まえたとありますが、審議委員の中に〇〇委員さん、〇〇委員さんはアスレチックトレーナーの四国ブロックディレクターです。私も香川県の代表なんです、よくトレーナーというのはけがをした者を対応すると思われていますが、私たちアスレチックトレーナーというのは、十分にスポーツドクターと連携して予防のところから行っています。

高松市も医師会に所属されているスポーツドクターと私たちアスレチックトレーナーとがしっかり連携を取れるように考えてほしい。

私たちは、スポーツは続けていただきたいのですが、スポーツをしてケガをされるのが怖いので、「スポーツをしよう。見つけよう。」だけの手段では困る。

事故なく、ケガなくというベースになるもの、「今やってるスポーツはあなたに合ってますか。」というような情報発信を継続的にしていきたい。

高齢者は「広報たかまつ」をよく読んでいます。せつかく月に2回広報誌が出ているので、そこに、コーナーを設けて、アスレチックトレーナーのことだけではなく、「見つけよう。」を含めて、何か定期的に発信して、スポーツ行政に関して全市をあげて、もう一歩前進した情報発信をして頂きたいと思います。

【F】

「見つけよう！わたしのスポーツ」の一番最後のところでしょうか、スポーツ事故・障害等の防止にかかるスポーツ医科学情報の発信というのは、今話し合ったように、「今されてるスポーツがあなたに合ってますか。」というまさに、「見つけよう。」という大きな一つの内容であるので、是非効果的に情報発信できる機会を設けて頂ければと思います。せつかく人材がおりますので、いい発信ができるのではないのでしょうか。

【F】

基本方針2「集まろう！みんなでスポーツ」のところで、国際大会「サンポートトライアスロン」が出ていますが、国際大会規模という位置づけでよろしいですか。

【事務局】

現状といたしましては、韓国、台湾、この2か国からしか来られて

いませんが、そういうことです。

【F】

いい話ですね。高松市共催と言うことで、国際都市に向けての一つのイベントとして作り上げていこうと言うことですよね。

また、新規で、障害者スポーツの推進と言うことで上がっています。

基本方針2「集まろう！みんなでスポーツ」の集まろうに対して、協会・団体との連携、指導者・審判委員の育成、大会の誘致、合宿の誘致と言うことが書かれています。

【D】

まずは、そこからなのかなあとと思います。東京オリンピック・パラリンピックの話がでて、障害者スポーツも、となってきたので、まずは障害者スポーツを知ってもらって、何が必要なのか、どういう支援をしてもらうべきなのかというのが、高松で活動している選手もそれがわからない状況だと思います。確かに先ほど話に出ました、ケガとかの話がありました。体に障害があるとやはり無理をして競技を続けている方が多く、ケガに対する予防をどうすればいいのか知らないこともあります。障害者と言っても幅が広いので、今回ここに記載してもらうことで、障害者スポーツがどういう物なのかを知っていただき、支援していただける方が集まってくれることで、障害者スポーツが広まっていくのではないかと思います。

【F】

集まろうという大きな枠の中の一つの基本施策として、大きく位置付きますので、高松市も多分大きく予算を付けて、力を入れて頂けると思いますので、是非よろしくお願いたします。

2020年もありますし、スポーツ庁もできましたし、独自予算だけでなく、福祉予算と一緒に広がりを持って、積極的にお願いします。

【A】

外部指導者活用の中で、教育委員会との連携を推進するというので、現状、中学校では基本的に外部指導者を認めていない。これは中学校の素人の先生が見よう見まねで指導した結果、中学校の野球部員が高校へ行って野球を続けると、肘、肩などのけがにつながっている。

小学生はスポーツ少年団で活動しているが、中学校の部活は教育の一貫である以上、きちっとした外部指導者による指導が必要と思う。TASSもできてきますし、高松だけでも派遣できるシステムを早急に教育委員会と協議していただきたい。また、燃え尽き症候群になっても困ります。一番怖いのはケガです。指導者はケガしません。ケガをするのは子どもたちです。何を考えて教育委員会は外部指導者はダメと言っているのかわからないが、そういうことを踏まえて、TASSシステムを早急に教育委員会と協議していただきたい。

【G】

香川県教育委員会でスーパー讃岐っ子の育成委員に〇〇委員さんと共にかかわっています。そこで、医科学サポートを絶対的に外してはいけないことは、指導者の育成、資質向上に、必ず指導者がケガに対する認知が必要と言うことです。そうしないと小学校中学校の時のケガが高校になって、花開くことになる。

今、スーパー讃岐っ子で集められている子供たち1学年約35人、運動能力A判定のトップクラスですが、その私が指導している子どもたちに、今、ケガをしているものと聞くと、3分の1です。

すでに3分の1の子どもたちがケガをしている状況です。ですから、どこかが、例えば大きい市が先駆けて、そこに手を付けていかないといけ

ない。この委員会を通じて発信できる体制を取っていただきたい。

もう一点、高松アドバイザースポーツシステム（TASS）の登録指導者さんには、AEDを使った救急法、救命救急というのを必ず講習を受け勉強するということを盛り込んでいただきたいと思います。

【B】

まず、TASSですが、これは「スポーツリーダーバンク」これに代わるもの、ということで高松市体育協会が中心になって、当初、平成28年度4月からの実施予定であったが、それを構築するにあたって、いろいろな協力が必要であり、平成28年度中に完成させ、完全実施は平成29年度からと考えております。たくさんの資格の中で例えば、公益財団法人日本体育協会の上級コーチとかコーチ、これは日本のトップチームの指導者であり、ほとんどの高松のスポーツ教室については地域の方々とか、少人数であったりと、多種多様なスポーツ教室が実践されている。これにより、出来るだけニーズに答えられるように、TASSというものを構築しようと進めている。

今おっしゃられたように、TASSに登録するには、事前にいろいろな講習会を行い、その中に事故に対することとか、救急処置法とかを入れていく。

また、高松市内で地震があった場合、教室に来ている指導者が第1番に誘導しなければならないが、ところが現在それはできていない。だから、高松市内で指導する指導者には、そういうことが起こった場合はどこに避難すればよいかについても、講習していこうと考えている。

まだまだ、具体的にはそうになっていないが、TASSに登録して、みんなやっていこうという方向性で、今、体育協会の中で小委員会を作って進めており、平成28年度中に完成させたいと考えております。

【F】

指導者育成という形では、質の高い指導者の育成、また、いろんな意味での指導者育成をしていかななくてはならない。という内容であり。その中で、高松市体育協会さんが具体的に進められているという内容で、障害者スポーツ等も含めていくということです。

〇〇委員さんからあった外部指導者の件ですが、例えば中学校の部活動がメインだと思いますが、地域密着型トップアスリートチームとの連携とも上段にもありますし、急にいろんな種目を広げるっていうのは難しいかもしれないので、野球やバスケットボールであれば新しい種目を拡充するにあたって理由付けしやすいのかなと思います。

今、武道関係でという話でしたけど、そういうところから少しでも枠を広げていくような御検討をいただけたらありがたい。ということでしょうか。

また、ボランティアの方も高松市として頑張っていると言っていることでしょうか。

【I】

16ページの「青少年のスポーツ振興と青少年の身心の健全な育成」と18ページの

「青少年のスポーツ振興と青少年の心身の健全な育成」が違うが何かあるのですか。

【事務局】

意図はありません。いずれかに統一します。

【F】

基本方針5 「活かそう！みんなの施設」の方でお伺いします。

スポーツ施設に関しましては、日本全国昭和30年代40年代ぐらい

から県立の施設が作られていて、その後、市町村の施設の整備という形で、全国的に県立施設は老朽化、市町村の施設は立派できれいだという流れで、早くできた施設は老朽化というあおりを受けているというのが日本中の現状です。という中で各自治体がPFIだとか信託銀行からお金を借りてとか、いろんなやり方でスポーツ施設を整備充実させていく。これは非常にお金のかかる話ですよ。このあたりは非常に大事なところですが。いかがですか。

また、高松市ファシリティマネジメント推進基本方針については、スポーツ施設に関して何か大きな位置づけはあるのでしょうか。

【事務局】

位置的なことも含んで、統合するところは統合しましょう。それから、老朽化している物については、今後、廃止も含めた検討や、新たな整備が必要なものの検討をしていくことが必要になる。ただし、まだ70年耐用年数がありますので、70年使えるように管理していくという観点で、スポーツと同じようにさび分けをしてやっていくという形になっている。

まだ、具体的にどの施設をどうするということまで進んでいませんが、これからそれを踏まえて計画を進めていきたいと思っています。

【G】

今、市内体育館の利用申請単位が、午前、午後など3時間が最短区分になっている。利用者によれば90分で良い団体もあるので、1時間単位の申請が出来る様に検討してもらえないか。そうすると、3時間の中で2団体申請できたりするので、もっと利用団体が増えるのではないのでしょうか。

【F】

今言われた効率的な利用区分については、指定管理団体の話になってきます。

ただ、市として指定管理者先に、「こういう考え方が大事なんじゃないですか。」と指導することは可能ですか。

【事務局】

できますので、指定管理者先にこういうご意見があったと言うことを早速お話しします。

【F】

利用者団体側からのニーズとして、こういう声がありますよ。というのを指定管理者先と情報交換できる仕組みを作ることが、施設がより効果的に使われることになるのではないかと。そこは行政側として考えて頂きたい。

財団として、収益をあげていて、うまく運営できているのであればそれは立派なことだと思います。

【事務局】

現状といたしまして、県立体育館が閉鎖となりまして、市内の体育館については、稼働率が90%を超えており、ほとんど予約が取れない状況です。そんな中で、調査はしていませんが3時間の申請に対し90分しか使用していないことがあるかもしれません。2団体が3時間を分けて使用することについて問題ないと思われるので、指定管理者の方に意見があったことを伝えます。

【事務局】

指定管理者制度は、指定管理者側の経営改善努力がみられる柔軟な制度でございますので、この件に関して、全体として指定管理者にお伝えしていくことかなと思います。

それと、スポーツ施設ではありませんが、サンポートホール高松を作った時に、練習会場に限って1時間単位の料金設定をした結果、低料金の実現できた。サイズが小さかったので実現できたことですが、利用率の向上に関しては、利用しやすい、親しみやすい施設。などの評価をいただいている。

サイズ感もありますが、指定管理者にはお伝えしていきたいと思いません。

【事務局】

補足ですが、整理として、市総合体育館、香川総合体育館など大きい総合体育館については、利用が大きいイベントを想定しており、3時間区分の枠組みになっております。その他の小さい規模の体育館については1時間単位の貸し出しという整理になっております。

今年度から、利用料金制度を指定管理者に取っています。条例では上限設定になっており、それ以下の料金設定については、指定管理者の方の権限で、市の承認を得ながら柔軟に対応できる制度を取っています。

【A】

21ページの「指定管理者制度（利用料金制度を含む）を活用して」でございますが、特に指定管理者制度についてはT S U T A Y A図書館の問題があったように、企業は収益性を第1に考えます。それと、永続的に企業が指定管理するものなのか。例えば本体が、業績悪化した場合、途中でやめるようなことも考えられますので、安易に公共施設指定管理者を入札などで募集するのは問題があるのではないかと思います。

あと、東四国国体の際に選手の受入枠で、高松市スポーツ振興事業団を作りましたよね。全国でもいろんなところで作られ現在指定管理されており、決算内容を見てもそこそこの運営をされています。高松市としましては、2年後には屋島陸上競技場が完成しますが、そういったことからスポーツ振興事業団のような、役所と密着した指定管理者でないか難しいのではないかと思います。

今、こども園運営課が民間が指定管理をやっています。それを見ると、民間は収益性のある施設のみ指定管理をされています。収益性の悪いところは民間は一切手を付けない状況で、そういった問題も出てくるので、指定管理者制度については十二分に検討していただきたいと思いません。

【F】

丸亀市は丸亀市体協の財団で、全市的にやっていますよね。あそこの話を聞くと、すごい頑張っていると思いません。高松市もほとんどスポーツ振興事業団がやっていて、非常に頑張っておられるなあと思いません。

民間が指定管理をしているのは、基本、県の施設ですね。そこも一生懸命されていると思いませんが、市は市でちゃんとやりましょうと言う、お声掛けのご意見だと思います。

どこか片隅にでも置いておいていただければと思いません。

【F】

11ページの施設のところの「ユニバーサルデザイン・・・」というところの大きく削除しているのは、本体の12ページの方で、新しく基本施策の中に位置づいて、その中でもバリアフリー化と書かれているということですよ。

【事務局】

そうです。

議 案

○高松市スポーツ推進計画（案）〔第4章「計画の推進」について〕

特に意見なし

議 案

○高松市スポーツ推進計画（案）〔第3章「基本施策の展開」の中の数値目標〕について〕

【F】

施設の利用者数は、すごいですね300万人／年。人口が減っていくと思うのですが。

【A】

数値目標の中で、ほとんどが7年で現状維持だが、今日は〇〇委員さん（スポーツ推進委員）もいらっしゃいますが、スポーツ推進委員の認知度が下がって（27年度実績）いますが、35年度の目標値が20年度の目標値も35%と同じであるが、何か問題点があるのでしょうか。

スポーツ推進委員の今の制度の中で、地区からスポーツ推進委員を推薦することになっているが、1名しかいない、もしくは1名もいないところもあり、今の制度が推薦するのが難しい制度なのかなあと思う。現状の非常勤嘱託職員となる制度じゃなくて、他に制度があるのではないかなあと思いますが、課長いかがでしょうか。

【事務局】

スポーツ推進委員制度に基づきまして、高松市も全国と同じような状況で活動していただいておりますが、引き続き同じような対応でできればと思っております。

現在、スポーツ推進委員の認知度はこの目標数値に達していません。この数値目標に向かって、また、推進委員の数も内海副会長さんからお話がありましたが、全地区からスポーツ推進委員が出て頂けるように、スポーツ振興課として、スポーツ推進委員さんと協議し、何か方策がないか検討を続けていきたいと思っております。

【A】

市民スポーツの中で、一番重要な役割でないかと思う。各地区にスポーツを広く浸透させるという意味では重要なところですが、私の地区でも、商売をしているとなかなか出ていくのが難しく、推進委員を見つけることは難しい、と言うことで、今の制度を費用弁償に変えていくとか、出やすい制度に変えていくような方法があれば、是非検討していただきたい。

【I】

ある校区につきましては、もう3期6年くらいになりますが、男女ともにスポーツ推進委員がいない校区があったり、一人だったりとかします。まだ、一人でも推進委員がいらしゃると、市から校区へのお知らせができますが、選出されていない校区につきましては情報が伝わりにくく、出来るだけ全校区そろそろようにスポーツ課さんをお願いします。

【F】

スポーツ推進委員の認知度を上げるってことも大事なんですが、スポーツ推進委員さんが土日を削って出かける仕事が増えてきて荷重感がある中で、市民にとって認知度が上がらないというあたりが、スポーツ推

進委員さんに何を願うのかを見直していく必要があるのは間違いないので。市としてスポーツ推進委員連絡協議会などの中で前向きな、議論をしていくのが一番かなと思います。

【I】

スポーツ推進委員としての認知はなくても、地区体協の方というのでは知られている。スポーツ推進委員は市の行事で活動していることが多いが、地区体協は地元で活動していることが多いので、これが数値に出ているのではないかと思う。

【A】

スポーツ推進委員の活動は大変なので、都合の悪い時はピンチヒッターを認めるとか、そういうことが可能であれば、スポーツをしていない人でも定例会に出たりとかで、多少スポーツに関わってきて、認知度も上がってくるのではないかと思います。15年たっても同じ目標値ではかわいそうな感じがします。

【I】

私たちスポーツ推進委員は縁の下の力持ちですので、認知度が上がらなくてもいいのかなと思います。

【事務局】

実際スポーツ推進委員の方を拝見しておりますが、市長からの委嘱という縛りはありますが、非常生き甲斐にされている方、楽しみにされている方などがいらっしゃいます。また、人とのつながりも見受けられます。そういった部分も含めて、活動内容とかの情報発信を推進委員さんと協議しながら、市として認知度や御理解をいただける体制を取っていきたいと考えております。

【B】

指導者の派遣回数ですが、目標値20回／年となっておりますが、TASSになれば一日で終わるくらいの数値です。数を出すのは非常に難しいのですが、うまくいけば高松市の体育館やスポーツ教室で指導している方はTASSに登録しないと指導できない。という風にしたいと考えているので、そうすると相当な数になると思います。ただ、予算面のこともあるのでやはり数値目標は難しいです。

【F】

ここでの目標値は、スポーツリーダーバンクでの目標値だったんですよね。

【B】

例えば、70回／年ぐらいでどうですか。

今からの審議となりますが、事業団のスポーツ教室も指導者の登録が必要となるので、すべての財源が市というのではない。

ということで、数値目標を入れるとすると、数を増やしておく方が良いかと思います。

【G】

市の予算を使って派遣をするというのは、何か基準を設けるのですか。

【B】

前のスポーツリーダーバンクの時は、半分が市、半分が受益者負担でやっていた。それが廃止になって数年たっていますので、新たに基準などを構築していかななくてはならないと思います。

また、市民が一番嫌がるのは、スポーツの中で縦割りとなっていることで、いい方向に行けば、コミュニティセンターで健康づくりの指導をされている方、ウォーキングを指導されている方もTASSに登録してください。というところまで持っていきたい。なぜならば、更に高齢化

が進んでいく中で突発的な事故が起こることも考えられるので、すべての指導者は登録してください。ということですが、まだ、体育協会の中での協議中です。

【G】

高松市は、保健センターが中心になって、介護予防の「元気を広めるひと」という地域ボランティアを養成しています。その中でのびのび元気体操というのを高松市で作っていて、その体操を普及させる指導者講習をしている。

そんな形で、いろんな部局でよく似たことをやっている。

【B】

そういった感じで、参加者は関係ないのだが、行政の方で縦割りしていることから、TASSで一元化しようと考えている。

【F】

今日はその数、目標値の問題なんですけど、行政の仕組み、横の連携などを含めて充実を図りたいということ。ついては、指導者の派遣回数については回数を増やすことではいかがかというご提案ができました。これには予算も関係してきますけれども。

事務局いかがでしょうか。

【事務局】

提案ですが、この数値はスポーツリーダーバンクからの数値目標が達成されていないので、そのまま移行したという状況です。今、〇〇委員さんが言われましたように、TASSが構築されたあかつきには、それなりの数値を再度確定する必要があると思いますので、今回は数値を入れることなく、最初にありましたように、新たな制度の展開や見直しが必要になった時には、適宜柔軟に対応していくと言うところもございませぬので、構築されたのちに、ここに新たに目標数値を定める。と、注釈を入れるうえで取り扱っていきたいと思います。

【E】

表紙の「スポーツを たのしく！ かっばつに！ まいにち！ つづけよう！」についてはどうなったのか。

【事務局】

これは皆さんにご賛同いただいたということで理解しております。

【E】

スポーツ推進委員とスポーツボランティアの位置づけはどういう風になっているのか。

【事務局】

スポーツ推進委員がボランティアに出ていただくのではなく、高松トライアスロンに参加しているボランティアが700名ほどいます。そういう風にスポーツボランティアに携わっていただくことを楽しみにされている方もいらっしゃいますので、高松市が行おうとしているイベントなどに参加できる機会を与えられるような形をとればと思っています。運営につきましても、ボランティアの方は興味を持ってきているので、力を借りることによってさらにいいイベントになるのではないかと思います。

【I】

ボランティアの募集はどのようにしますか。

【事務局】

まだ、そこまで考えていませんが、各イベントに参加しているボランティアの方に、声掛けをして他のイベントに参加していただけるようになればと思っています。

【C】

ダンスをしているが、高齢者はたくさん参加されているが、どこに行っても若者がいなく寂しい。

今、いろいろ審議しているが、是非年齢問わず皆さんが参加できるようになれば良いと思います。

【H】

死ぬまで元気でいられるようにするには、スポーツがとっても大事だと思うので、みんなで知恵を出し合っていければと思うのでよろしくお願いします。

